



留寿都村「ゼロカーボンシティ」宣言

地球温暖化の影響とみられる気候変動により、近年猛暑や大規模台風、集中豪雨などの自然災害が国内外で頻発し、各地で甚大な被害が生じています。また、地球温暖化により、地球上の貴重な生態系に大きな影響を及ぼすことも懸念されています。

2015年に採択されたパリ協定では、地球温暖化防止のため「産業革命以前の平均気温の上昇を2℃未満とし、1.5℃に抑える努力を追求する」との目標が掲げられ、そのためには、「2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

このような国際情勢から、2020年10月、政府は、「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指す」とことを表明し、2021年5月に改正地球温暖化対策推進法が制定されました。

またSDGs（持続可能な開発目標）においても、「13. 気候変動に具体的な対策を」として、気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策をとることとされており、各自治体においても対応が求められています。

留寿都村は、脱炭素社会の実現に向けて、限られたみどりを守り、将来の留寿都村を安心・安全に暮らし続けることができるまちとして未来の子どもたちに引き継いでいくため、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」として、主体的に取り組んでいくことをここに宣言します。

令和 4年 1月20日

留寿都村長 佐藤 ひさ子